

雑記抄

加齢・経年・老朽化（パート2）

ちよつと話が諄いよう御叱りをと思いつつも、高齢化の現実にあつては「独り合点」の早とちりに気を付けたいので、大方のご批評をどうぞ。

加齢現象：ある雑誌連載の「長寿社会を生き抜く病気とのつき合い方」で加齢黄班変性という目の病気を知つて、又しても加齢が目に焼きついたのである。

網膜の中心部にある黄班が傷害されると、視野の最も見ようとするところが見えにくくなり、物がゆがんだり、小さく見えたり、暗く見えたりするという。また、出血すると急に視力が低下したり、時には片眼だけに病気が生じた場合、両目で見ていると気づかないこともあつて、高齢者に多くて主に六十歳以上に多見されるというので、なんとも「情け無い」といつて、どうにも「仕方無い」といつて放置するわけにはいかないから始末に負えない。

飛蚊症と共に「黄班変性お前もか」と地団太踏んでもはじまらないのが加齢現象だから正に「療法が肝要」で。

経年変化：経年変化は

確かに緩やかで穏やかで和らかな経過をたどるが、「世

知辛いこの世」などといわれ

勝ちな昨今にあつては「情性

・マンネリ好き嫌い」などが高じ

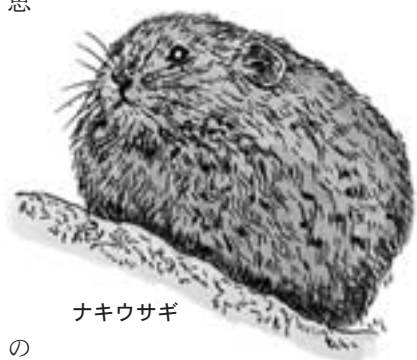
ると得てして、「一

言の多少・見る聞く思

うの相違・忘れど忘れ健忘症」などの危険因子が暮らしのリズム

と心のバランスを変化させる言動が多発して、老後の経年変化を逆現象へと急転させるのだから正に

要注意である。日常茶飯事のような「言った言わない、聞いた聞かない、したし



ナキウサギ

ない」等の「諍い果てての乳切り木（けんかが終わってから棒を振り回しても無駄だから、時機を逃して役立たず）」になるような経年変化では駄目なのである。正に用心・要心・陽心である。

ふと、「経年貯留ダム」という

語に接して、比較的に流域の面積が小さい場所に作られた水資源を確保する備蓄用のダムとわかった

が、下流の水量調節など

にも役立つダムで、

いわゆる「多目的

ダム」としての

忠別ダムが完成

したのも経年変

化の「ある種の

財産」ともいえ

るのであるうか。

老朽化：改良費

九億円、JR北海道

の踏切遮断機トラブル頻

発、半数「要手術」というシヨ

ツキングな新聞記事では、全踏切

の約半分に当たる九百六十二カ所

のシステムを約九億円かけて改良

するといふのである。

物的事故はもろんのこと、あ

つてはならない人的事故を防ぐ踏

切遮断機の改良は一刻も早く実施

すべきことであり、総予算のどれだけに当たるのか九億円を投じる「金にはかえられない人命の安全確保」は当然のことで、装置の老朽化による列車接近の感知を迅速かつ適確にすることは言を俟たないことである。

老朽化といえば、公園・学校・遊園地・広場などの遊具や施設の点検などの事例が喚起される昨今であるし、危険区域へのゲートや防護施設などの一斉巡視・確認活動もさげばれている。

人身事故が発生してやつとの「重い腰あげ」ではとつくづく思うことが余りにも多い諸種のリスク管理は、正にいつも・いつでも・いつまでも絶対不可欠なことである。未然防止にも：。

衣のオリジナル、食のグルメ、住のリフォーム等のいずれにも視点を集中させる「きめ細かい気配り」とは暮らしの安心・安全・安定の基盤である限り、加齢・経年・老朽化に向けての町の風の吹き回しや如何：であろうか。

前中央分館長

尾池隆男